



俺 0 0 0 1 0



book-fukunokami

「俺もきゅうりを買って折るんだ」

俺は八百屋で叫んだ。

「お客さん折るためにきゅうりを買うですか、折らずに食べてください」

八百屋の兄ちゃんは叫んだ。

「私もきゅうりを折りたい」

「俺もだ」

「私もよ」

きゅうり折り隊のフラッシュモブが始まった。

いや、これはフラッシュモブじゃないのかもしれない。

俺はとにかくフラッシュモブがわからない。

「いやだ、いやだ、折るためにきゅうりを売るなんていやだ」

八百屋の兄ちゃんは泣き出してしまった」

「じゃあきゅうりは折らないよ」

「俺もだ、俺もきゅうりは折らない」

「私もよ」

「そうかい、そうかい、みんなわかってくれたんだね」

「きゅうりを食べるのもやめるよ」

「俺もだ、俺もきゅうりを食べない」

「私もよ」

「ええ～ん、折らなくてもきゅうりは食べてください」

八百屋の兄ちゃんはまた泣き出してしまった。

「じゃあ、きゅうりを食べるために買うよ」

「俺もだ、俺も、きゅうりを食べるためにに買う」

「私もよ」

そして集団はきゅうりを買った。

だが、俺が買う前に売り切れてしまった。